



平成29年度(2017年度)
文章読解・作成能力検定

2 級 D 検定問題

検定日：平成30年(2018年)2月4日(日)

検定時間：90分

開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。

<注意事項>

■受検について

1. 氏名、生年月日、性別、会場名(団体名)、会場番号を、答案用紙のそれぞれの欄に大きく、丁寧に、はっきりと書いてください。
2. 検定開始後に問題冊子を開いて、問題の印刷が不鮮明な部分や、ページの落丁・乱丁などがあれば、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 問題冊子の余白は自由に利用してください。

■解答について

1. 答えはすべて答案用紙の解答欄に、HB以上の濃い鉛筆、またはシャープペンシルで記入またはマークしてください(ボールペンや万年筆などは使わないでください)。
2. マークはきれいにぬりつぶしてください。間違ってマークしたものは、鉛筆の黒いあとが残らないように消しゴムできれいに消してください。
3. 選択式問題では、問題文で指定された数だけ解答欄の記号をマークしてください。マークの数が指定された数と異なる場合は、採点の対象となりません。
4. 記述式問題で解答の行数が指定されているとき、行数が不足した場合または行数を超えた場合は、採点の対象となりません。
5. 答案用紙を破ったり、汚したりしないでください。
6. 提出する前に消しゴムのカスが残らないように払ってください。



公益財団法人 日本漢字能力検定協会

[不許複製]

年	組	番	氏名

第1問 次は、大学生が作成した、「節約」に関するレポートの構成表です。これを読んで、下の問い（問1・問2）に答えなさい。（30点）

【レポートの構成表】

標題：イメージづけによる節約行為の実践

1 (①)

「節約」というと「ケチ」「我慢」などのイメージを抱きやすく、抵抗感を覚える人があるという。そこで、同じ行為に対して別のイメージづけをした場合、節約行為が実践されやすくなるかどうかを調査し、結果を確かめる。

2 調査の方法

(② 内容の数：2個 ※解答欄の記号を2つ選択すること)

(注：図書館のコピー機は使用枚数を図書館職員に申告するようになっているため、枚数の把握に問題はないと考えられる。)

3 (③)

張り紙の掲示前と掲示後を比べると、ミスコピー発生率は次のようになった。

1階コピー機 21.4% → 16.6% 2階コピー機 20.8% → 8.4%

どちらの場合もミスコピーは減っているが、比較すると、2階コピー機のほうが減少の幅が大きくなっている。

4 結果の考察

(④ 内容の数：2個 ※解答欄の記号を2つ選択すること)

以上

問1 構成表中の空欄①・③に入る見出しとして最も適切なものを、A～Fのうちから1つずつ選びなさい。ただし、A～Fの項目は1度しか使えません。

- A 先行研究 B 調査の目的 C 調査結果への私見
D レポートのテーマ E 調査の結果 F 今後の展望

問2 構成表中の空欄②・④で述べる内容として適切なものを、ア～エのうちから2つずつ選びなさい。(完全解答)

1 空欄②

- ア 9月1日から14日までの2週間、本校図書館にあるコピー機（1階、2階の2か所）前に「ミスコピーに注意」という張り紙を掲示する。1階には、「節約のため」、2階には「環境のため」という理由を張り紙に記載する。
- イ 調査場所は本校図書館（1階コピー機、2階コピー機）。調査期間は2週間とし、各コピー機前に「節約のため」「環境のため」という2種類の張り紙を掲示する。
- ウ 調査期間中の各コピー機の利用者とミスコピーの発生率を調べ、イメージづけによる節約行為の実践に違いが出るかどうかを確かめる。張り紙をする前の発生率と比較した時、大きく違いが出るものと予想される。
- エ 各コピー機について、ミスコピーの発生率を算出する。調査期間中の両者を比較するほか、張り紙を掲示する前の発生率とも比較する。

2 空欄④

- ア 「環境のため」という理由が張り紙にあると、コピーする時に注意深くなれた。このことから、節約したいときは環境問題に結びつけるのが効果的だと考えるようになった。
- イ どちらの張り紙でも、張り紙を掲示する前に比べてミスコピーの発生率が下がったのは想定外だった。調査結果を正確に予測できるよう、調査の方法や内容を見直す必要がある。
- ウ 「環境のため」という言葉は、「明るさ」や「社会貢献」などプラスのイメージを抱きやすい。そのため、節約行為に対する抵抗感が減り、積極的に節約につながる行動を取りやすくなると考えられる。
- エ 「節約のため」でも「環境のため」でもある程度の節約行為は実行されるが、効果が高いのは「環境」を理由とした時のようだ。

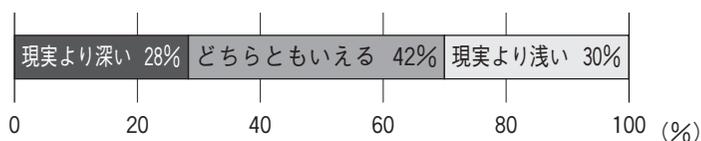
第2問 次は、「若者の人付き合いの深さ」について書かれた文章です。これを読んで、この文章を要約します。後に示した要約文を完成させるために、下の問い（問1・問2）に答えなさい。（40点）

インターネットの普及を取り上げると、よく言われるのが「人と人とのつながり方が変わった」ということだ。特に若者に対して「昔の若者より人付き合いが浅い」「現実の人付き合いよりネット上の付き合いを好む」などという指摘がされることがある。

そこで、当の若者はどのような意識でいるのか、インターネット上の対人意識について調査を行った。対象としたのは、都内の大学に通う大学1・2年生、男女あわせて467人である。この調査結果のうち、今回は「ネット上での付き合いの深さ」について取り上げる。

図 ネット上での人付き合い

図は、「ネット上での人付き合いは、現実の人付き合いに比べてどうか」を尋



ねた結果だ。回答は選択式で、「深い」「浅い」「どちらともいえる」の3つの選択肢から選んでもらった。これを見ると、現実より「深い」という回答、「浅い」という回答がともに約3割であり、ほとんど差がない。さらに「どちらともいえる」が約4割で、ことがわかった。

次に、「使用するツールの数」に注目したい。これは同じ調査の中で、インターネット上の代表的なコミュニケーションツールA・B・Cの3種を挙げて、「このうち、日常的に何種類を使っているか」を尋ねたものだ。

表 ツールの使用数と人付き合いの深さ

	1種類	2種類	3種類
深い	15%	29%	56%
どちらとも	34%	31%	35%
浅い	48%	28%	24%

この結果を、上で見た「人付き合いの深さ」の結果にクロスして集計したところ、表のようになった。ここでは、表中で色をつけた2か所の結果に注目したい。つまり、現実より「深い」と答えた人のうち、約6割が3種のツールのうち「3種類」とも使っていると答えていること、および、現実より「浅い」と答えた人のうち、約5割が「1種類」だけ使っていることである。ここから、日常的に使用するツールが多いほど、ネット上での人付き合いを深いものと認識し、逆に、ツールが少ないほど人付き合いを浅いと捉える傾向が見えてくる。

使用するツールが多ければ、必然的にネットを利用する時間も増え、そのツールを用いて関わる相手の人数も増えていくだろう。そこで情報をやり取りする量が増えるため「現実より付き合いが深い」と考えやすいのではないだろうか。

第3問 次の、状況を述べた文章を読んで、下の問いに答えなさい。(50点)

あなたはある小売店に勤めています。店では、来年1月から電子マネー機能付きの新しいポイントカード「ベルカ」を発行することになりました。そこで、店の顧客に対し、「ベルカ」への移行を案内する手紙を書きます。今月中にベルカへの切り替えを申し込んだ顧客には、特典として500ポイントを進呈します。旧カードのポイントは、そのままベルカに移行できます。店の売り上げ増につなげるために、電子マネーによるレジでの支払いは便利でスピーディーであることを強調します。

切り替え希望の人は、この手紙に同封した「申し込み書」に記入の上、店に持参するか返送してもらうようにします。

これに付け加えて、旧カードのポイントは来年9月末ですべて無効となるという内容の断り書きを入れます。

問 上の状況をふまえて、手紙を書きます。下の手紙の空白部分を補って完成させなさい。ただし、次の条件を守ること。

条件1 手紙の日付、宛名、差出人名は省略すること。

条件2 結語も忘れずに書くこと。

条件3 手紙は提示した文章に続くように、1行22字のマス目に横書きで、必ず10行以上、17行以内で書くこと。なお、句読点も1字として数える。句読点が行頭にきたときは、前行末欄内または欄外にうってよい。

注 意 行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。

拝啓

秋冷の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より当店をご利用くださり、まことにありがとうございます。

第4問 「社会の動きを知りたいときに、紙の新聞や雑誌などは利用する必要がないという考え方の是非」について、次の文章をヒントにして考え、論説文を書きなさい。下の条件を守ること。(80点)

企業活動の現場でも、学校教育の現場でも、従来は紙を使って伝達していた情報を紙によらずに伝えることが多くなった。また個人の生活の場でも、新聞の電子版や、電子書籍など、紙にとってかわる媒体が現れてきている。

日々移り変わっていく世の中のことを知るための代表的なものといえば、従来ならば毎朝配達される新聞や、定期的に刊行される雑誌だというイメージがあった。しかし、現代ではテレビやインターネット、またその他にも多種多様な情報媒体が自由に利用できる。だから、紙の新聞や雑誌はもう利用する必要がないと考えている人もいるようだ。

条件1 論説文は次に示す順序で4つの段落に分けて書くこと。

第1段落：「社会の動きを知りたいときに、紙の新聞や雑誌などは利用する必要がないという考え方」について、出来事やあなたの体験、知識を述べる。ただし、上の文章を要約・引用する必要はない。

第2段落：是か非かどちらかの立場に立って意見を述べる。

第3段落：意見の根拠を論理的に説明する。

第4段落：第2段落の意見とは異なる意見をとりあげて、その意見が正しくないことを説明する。

条件2 1行22字のマス目に横書きで、必ず27行以上、34行以内で書くこと。句読点も1字として数える。句読点が行頭にきたときは、前行末欄内または欄外にうってよい。

注 意 行数不足または行数超過の場合は採点の対象となりません。

検定日・検定を行う時間・問題回収などについて公正でないと
思われる点がありましたら、当協会までお知らせください。

電話番号：0120-509-315(無料)

受付時間：月～金 9：00 ～ 17：00

(祝日・お盆・年末年始を除く)

※検定日とその前日の土、日はお問い合わせいただけません。

